相良（さがら）三十三観音めぐり

熊本県人吉市・球磨郡

相良三十三観音めぐり

土手や畦に咲いた真っ赤なケサカケ（彼岸花）を愛でながら、山々をいろどるヒガンザクラを賞しながら、さあ「相良三十三観音めぐり」に出かけましょう。

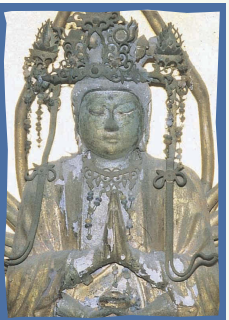
そこには優しい相良路の観音様のお姿と、温かい集落の人々が、お茶立ての用意までして待っていてくださいます。かつてはお彼岸の期間中、歩いて巡拝する人たちのために、「観音宿」というのまであったそうです。

参拝の順序は、一番から二番へという具合に順序よく巡ってもよいし、日程に合わせて順不同でもかまいません。実際には、この球磨・人吉地方の観音堂だけでも、百か所以上もあるのです。これらのお堂でも、お茶立てをして、お彼岸の接待が行なわれていますので、また別の出会いがあるかもしれません。

そうした中から、観音菩薩の三十三の悲願にちなんで、この「相良三十三観音」が選定されたのは、十八世紀の終わりのことでした。

（うら表紙につづく）

一番 清水千手観音



人吉市願成寺町

トイレ　通年開放

現在は、旧相良家の菩提寺「願成寺」の境内右手にあります。明治になって、人吉城内から今の場所に移されたものです。

この観音様は慶長五（1600）年、二十代藩主長毎によって京都の清水寺から勧請されましたので、清水寺に参ったと同じ功徳があるとされています。ことに妊婦さんや、お乳の欲しいお母さんの信仰があついようです。境内には、国指定重文の阿弥陀如来坐像や、相良家墓地など、見どころがたくさんあります。

音羽山　音に聞こゆる清水の
　ふかき誓を　誰も頼みき　武親

谷河の　流れもすめる清水や
　そこにもうつる　御影あをがん　美辰

二番 中尾千手観音

人吉市浪床町

トイレ

古くは「蓮寿庵」といって、二十一代藩主頼寛の夫人が夫の菩提を弔うために建てました。

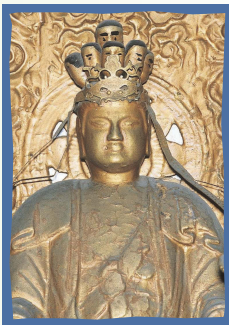
その後「清明寺」となって、中尾観音と呼ばれるようになりました。ここの本尊は願成寺から移され、どんな願いにも応えてくださると、多くの人々から信仰されています。

境内続きには、相良家の墓地や六地蔵、また受験に霊験あらたかな「源兵衛さん」。入り口には、恐ろしい形相の石造の青面金剛像などがあります。

ちりの世の　中を出たるふだらくや
　山とし高く　あふぐ御仏　武親

まよふなる　夢まぼろしの世の中を
　誰もしれとの　おしえひろしな　美辰

三番 矢瀬が津留十一面観音



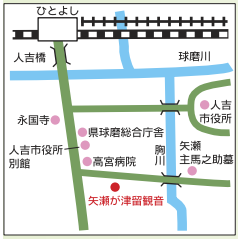
人吉市西間上町

トイレ

かつて胸川沿いの矢瀬が津留に「増運寺」という矢瀬主馬助の霊を祀った寺がありました。

その境内の観音堂にあった本尊が、文久二(1862)年の火災以降、現在地に移されたものです。かつては、子供たちの格好の遊び場でもありました。

元の位置には主馬助の供養塔があり、その周辺では今もって、「一本門松」という珍しい行事が受けつがれています。



せのわざは　夢の間のたはふれと
　　思い捨てつつ　法を求めよ　　武親

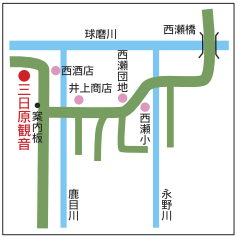
やま河の　せゼの流れにかけ留めて
　　月も宿かる　あきのよなかを　美辰

四番 三日原聖観音（さんじがはる）

人吉市下戸越町

球磨川に沿った眺望は素晴らしく、やはり仏の里だという気分に浸ることができます。堂や本尊の由来は伝わっていませんが、堂内の香炉台に享保十一(1726)年と、鰐口の胴に天保十三(1842)年の年号が刻まれています。

本尊もお堂も古くはありませんが、境内の一隅には塔身に梵字を刻んだ立派な宝塔が残り、由緒の深さを暗示しています。



月影の　けふ出初むる　みかの原
　　はるかに照らせ　ながきよの闇　武親

宵の間の　月もくもらぬ三かの原
　　わけ行く道の　末ぞ妙なる　美辰

五番 鵜口十一面観音（うのくち）

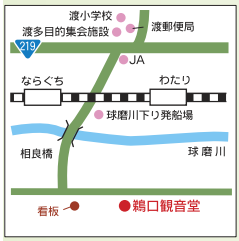
球磨村三ヶ浦 鵜口

トイレ

鵜口観音は球磨川下りの渡発船場を右下に見る景勝の地にあります。本尊は十一面観音菩薩立像で、両脇には毘沙門天像と不動明王像が安置されています。

この観音さんは今も観音田（約２畝）を所有し、６月には村人によって植付け供養が行われているそうです。

東側の道を３㎞ばかり登りますと、三ヶ浦大無田地区・松谷地区・毎床地区があり、春になると梨の花が咲き乱れ、一面桃源郷と化します。また、松谷地区の棚田は「日本棚田百選」の１つです。



彼の岸も　近き渡りになりにけり
　　ちかひの舟に　のりをえぬれば　武親

誓ひあれば　水も濁らぬ渡り川
　　清きながれに　うき浪もなし　美辰

厨子の中にお祀りしてある本尊の胎内に、宝暦二（1752）年に豊前中津の仏師が彩色したことが記されています。

また堂の正面の鰐口は安永七（1778）年に奉納されているようです。家を火災から守り、また子供の健康と幸せを守ってくださるというので、村の人ばかりでなく多くの参拝があります。

境内には正徳三（1713）年の庚申塔があり、「原田喧嘩」の伝承があるのも、このあたりだったのかもしれません。

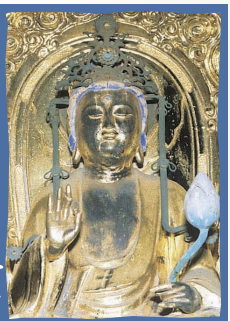
六番 嵯峨里十一面観音

人吉市下原田町

トイレ

法の道　所はおなじただ頼め
　　やみもしめしか　はらだ野の末　武親

越路なる　仏の原田
　　同じ名の所はここぞ　のりもかわらじ　美辰



七番 石室聖観音

人吉市下原田町

トイレ　通年開放

樹齢六百年近いカイドウの咲く「石水寺」の境内、その右手にあります。まことに素朴なお堂。

嵯峨里観音に出てきました「原田喧嘩」、その頃あった石室寺の本尊がここに移されたのではないかと想像されています。

石水寺は、ゆうれいの絵を描いた永国寺の実底和尚の隠居寺。寺の内外は、まさに信仰文化財の展示場。アーチ型の眼鏡橋や丸い石をくり抜いた山門などがあります。

逢ふことは　得がたき石の室の戸の
　　ひらくやのりの　華と見るらん　武親

逢ひかたき　石の室の戸もろともに
　　ひらくるのりの　花を待つらん　美辰

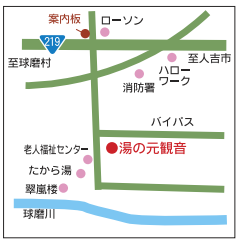
「林温泉」の通称で親しまれてきたここの温泉は、すでに明応元（1492）年に十二代藩主為続も入ったという記録があります。その時に参詣したのが「湯楽寺」となっていますが、この観音堂の前身だと思われます。確かに、今でも入浴の後にお参りすれば、身も心もまさにリフレッシュはまちがいなし。

境内は道端ですが、イチョウの大樹がそびえ、享保三（1718）年の庚申塔も建っていますし、付近には温泉旅館があります。

八番 湯の元聖観音

人吉市温泉町

トイレ



走り湯に　こころのあかをすすぎては
　　うちとも浄き身とは成るらん　武親

世のちりと　心のあかを走り湯に
　　すすきて浄き身となりぬべし　美辰

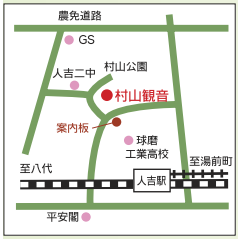
九番 村山千手観音

人吉市城本町

トイレ　通年開放

村山観蓮寺の境内にあり、本尊は千手観音で、あらゆる手段で救ってあげようとのお姿。像の高さは、1m67cmあります。この寺の由緒は深く、矢瀬主馬助が平重盛菩提のために創建したとされています。

本来の登り口は人吉駅の裏手、大村横穴群がある「大悲坂」から。そして、お堂までの道中は六体のお地蔵様が次々に立って、参詣の案内と安全を見守っていてくださいます。



霧かすみ　ふた村山の空はれて
心の月もすみのぼるかな　武親

晴間なき　心のやみか霧かすみ
ふた村山の月に照らさん　美辰

十番 瀬原聖観音

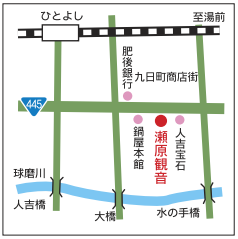
人吉市九日町

トイレ　通年開放

人吉の中心街にあります。ただ鍋屋本館近くの入口が狭いので気をつけてください。

しかし、境内に行き着くと球磨川や人吉城の素晴らしい借景の中に「瀬原観音院」があります。この寺は曹洞宗永国寺の末寺ですが、聖観音が本尊というのは珍しいそうです。

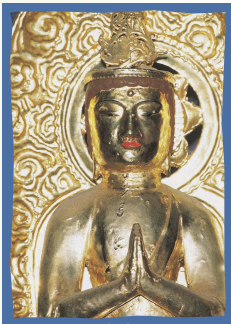
境内にある「ガラン様」は耳の病気を癒したり、咳も止めてくださるという信仰があります。また、キリシタン灯篭と呼ばれるものの竿石の部分も立っております。



天津風　はらひ捨てたる山のはの
月より西に　雲もかからず　武親

のりの道　ここに旅寝の手枕に
ひとよしばじの夢もむすばん　美辰

十一番 永田（芦原）聖観音

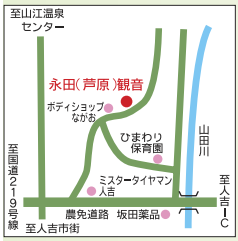


人吉市瓦屋町

トイレ　通年開放

臨済宗「聖泉院」の境内にある本尊は、もとこの寺の末寺「施無畏院」から、明治時代に移されました。元の所在地が大村鬼木の芦原でしたので、今でも「芦原ん観音さん」と呼び親しまれているのです。ここの本尊は合掌をしておられますが、それは手を合わせるあなたを拝んでいてくださっているのです。

石段の脇には二基の庚申塔があります。一つには明暦三（1657）という年号がみられ、堂には文化十三（1816）の鰐口も。



琴のをに　ききなれぬ音や
たのしみを極むる国の　しらべなるらん　武親

来てみれば　ここを鬼木と夕暮の
風もすずしき御仏の庭　美辰

十二番 合戦嶺聖観音

山江村山田

トイレ　通年開放

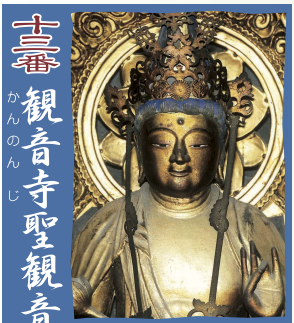
江戸時代のおわり、真言宗の名刹「高寺院」の末庵で、本尊も室町時代の作だと推定されています。再彩色のため、本来のお姿が損なわれていますが、桧造りの立派なお像です。地名にちなんで、お参りすれば勝負ごとに強くなるとか。なるほど、古い記録には「勝の峯」ともあります。

境内は一向宗禁制のおり、山田村の伝助が処刑ののち首がさらされた場所でもあります。また少し足を伸ばすと高寺院、山田大王神社、山江村歴史資料館もあり多くの学習ができます。

秋風の　嶺ふきこゆる音づれや
　　すずしき国を　知れとなるべし　武親

山田もる　庵がのきふく秋風も
　　すずしき国の　おとづれと知れ　美辰

十三番 観音寺聖観音

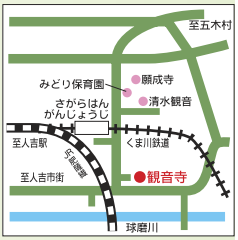


人吉市願成寺町

トイレ

臨済宗「観音寺」の創建は古くて、元中二(1385)年に七代藩主の前頼が開いたものです。そして当地方で初めての、施餓鬼供養が行なわれたと伝えられています。お堂は本堂の右手にありますが、本尊の両側には釈迦如来と阿弥陀如来がおられます。

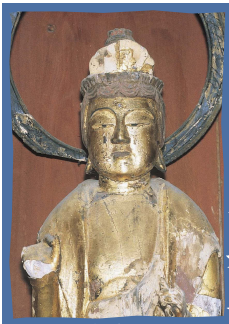
堂の前には文安五(1448)年に、天草で奉納された鰐口があり、また山門付近には、「汗かき地蔵」や灯篭型の六地蔵塔なども見られます。南の対岸は人吉城の「お薬園跡」があります。



世の中に　あらん限りと誓ひてし
　　仏の御寺　ただたのむべし　武親

影高き　仏の御寺あをぎみよ
　　ただたのむべきのりぞここなる　美辰

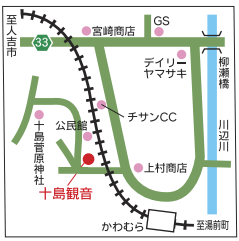
十四番 十島聖観音



相良村柳瀬

トイレ

ここの本尊のルーツは少し複雑で、近くにある「十島菅原神社」と深い関係があります。つまり「慶長の役」に従軍した願成寺十三世の勢辰は、この神社の別当寺として「蓮花院」を開きました。さらに、そこの小堂「安養寺」に祀られていた仏像こそ、十島観音でした。そのためでしょうか、若干傷んではいるものの、なかなか立派な尊像です。



寛永4(1627)年、蓮花院で一向宗の信徒がいたことが発覚、大事件となりました。

山風も　梁瀬の波も打添へて
　　みのりの声をとなへぬはなし　武親

風わたる　やなせの波の音までも
　　御法のこへにきくやまかへる　美辰

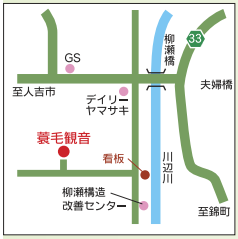
十五番 蓑毛十一面観音

相良村柳瀬

トイレ

本尊の台座に、元禄三(1690)年に補修がなされた墨書があります。それで御詠歌の文句とも合わせ考えれば、元は「鐘林寺」というお寺だったとも想像されます。また別称、「ウトんかん」という名でも親しまれ、長寿をお授け下さると信じられています。

境内の周囲には、五輪塔などの残欠がたくさん見られます。



また、お堂の横を通っている「日やけ田道」は、旧県道につながっており往時は人の行き交いも盛んなようでした。

ひびきくる　鐘の林の寺の門に
　　運ぶあゆみの物うげもなし　武親

みの程も　しらでまどふや人こころ
　　あはれ胡蝶の夢のせの中　美辰

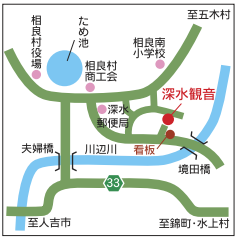
十六番 深水聖観音

相良村深水

トイレ

坐像の本尊は、もと錦町一武の「法輪山上之寺」から、天和三(1682)年に移って来られたようです。その前は、人吉藩の一大危機を救った深水宗芳の菩提のため、永正二(1505)年に建てられた「長命寺」というのがありました。その寺が廃絶した後、天和三年に滋雲庵ができ、そのおりに招かれたのが現在の観音様のようです。

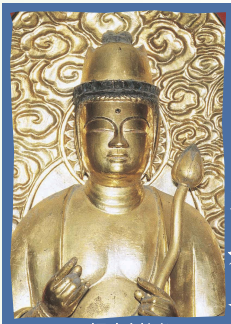
深水宗芳の墓は境内左手にあり、今では歯の神様として信仰されています。



くみて知れ　妙なる法の水深み
　　にごるは人のこころからぞと　武親

見る影の　うつるは水の底ふかみ
　　心からこそすむもにごるも　美辰

十七番 上園聖観音

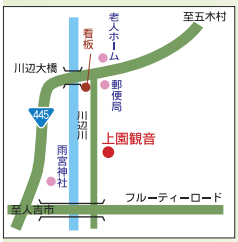


相良村川辺

トイレ

「萩原観音」というのが古い呼び名のようですが、今ではすっかり「うえんそんの観音さん」で親しまれています。文政六(1823)年と昭和に再彩色がなされていますが、詳しい由来はまだ解明されていません。しかし子供を病気から守り、かつては牛馬も守護して下さるというので今だにあつい信仰が。

堂の前には、寛政三(1791)の鰐口があり、境内にも宝永三(1706)年の庚申塔や古い墓碑などが見られます。



風わたる　川辺の浪の立居にも
　　わすれずたもてのりのいましめ　武親

すずしさを　楽しむ国ぞここなれや
　　風に川辺の浪きよくして　美辰

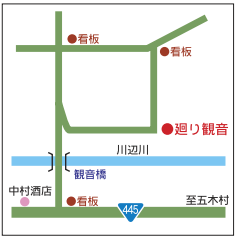
八番 廻り聖観音

相良村川辺廻り

トイレ

川辺川の激流を眼下にした、まさに景勝の地に、改築されたお堂が新築した公民館と並んで建っています。御詠歌から推察するに、「長楽寺」の跡ではないかと。本尊には、文政六（1823）年に補修した記録が見られますし、堂前の灯篭には寛延三（1750）という年号があります。

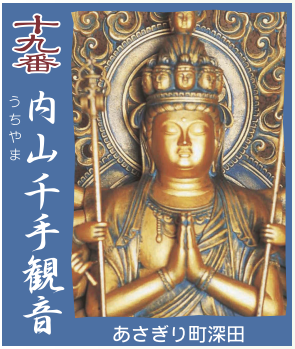
堂の裏は小高くなっていて、五輪塔などが残っています。さらに後方の道路際には、珍しい「がらっぱ（河童）」の墓もあります。



秋の夜の　長く楽しむ　寺はあれど
　　夢まぼろしの　世をばたのまじ　武親

羹はまた　み寺の名さへ　長楽寺
　　かねのひびきも　月とさえなむ　美辰

九番 内山千手観音

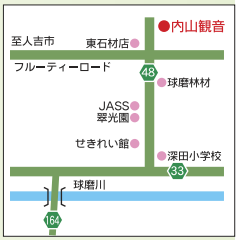


あさぎり町深田

トイレ

今の本尊は新しく、平成八年四月に迎えられた尊像です。しかし村人たちは、明治時代に火災で焼失した千手観音や、その後の代役を勤めた聖観音と少しも変わらぬ気持ちで、敬虔にお祀りを続けておられます。そして安産と病気の平癒にご利益があるというので、所々方々からのお参りも絶えません。

お堂の鰐口は天文四（1535）年、また南前方は「万福寺」の跡。境内には万福寺住職の墓や、まぼろしの美女千手局のお墓も。



長きよの　ねむりの内や　まよひをも
　　いざしらくもの　晴間なき身ぞ　武親

我とわか　うへし心の　花はあれど
　　ひらかぬうちや　まよひなるらん　美辰

二十番 植深田聖観音

あさぎり町深田

トイレ

本来の参道は、お堂の正面に設けられた作りつけの石段。とても急で、そのうえ摩滅しているため容易にのぼれない。しかしご安心あれ、別の道がありますから。本尊やお堂に関する伝承は、まだ解明されておりません。

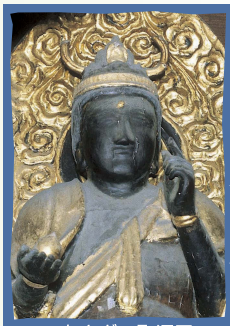
ただ、石段途中の地蔵尊や境内の石柱に、文化九（1812）年の年号が見られます。

堂内には別に聖観音の坐像と不動明王が。また五輪塔の地輪に、天正十六（1588）年とあるのは、慈眼庵の痕跡でしょうか。

すぐにゆく　雪の深田の　中道は
　　ありやなしやと　ふみまよふなよ　武親

心から　ふみも迷はん　のりの道
　　それかあらぬか　ゆきの深田を　美辰

二十一番 永峰如意輪観音

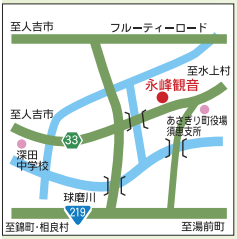


あさぎり町深田

トイレ

永峰観音堂は、伊勢大神宮と仲良く並んで建っています。今の感覚からすれば、一見不自然のようにも見えますが、江戸時代まではほとんどこうした姿が多かったようです。ただ、御詠歌の文句には須恵村(現あさぎり町)が出ていますので、以前に移動があったのでしょうか。

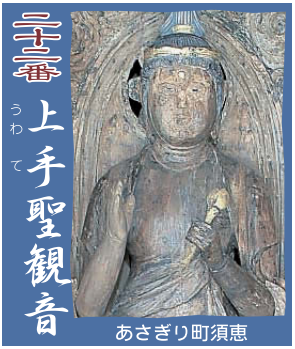
堂内には本尊と一緒に、石の地蔵尊と上品下生の印を結んだ阿弥陀如来像が祀られています。また、このお堂は裏手の「買多田」から移されたという言い伝えもあるようです。



いかなれば　鷲のみ山に　入る月の
　　すへのよかけて　猶てらすらん　　武親

ときあかす　のりの教への　末かけて
　　くもらぬ影の　有明の月　　美辰

二十二番 上手聖観音



あさぎり町須恵

トイレ

上手観音は別に「岩立観音」とも呼ばれています。球磨川の右岸に屹立する断崖の上にあるからでしょう。従来は札所に入っていなかったため、御詠歌はありません。

しかし、ここの地頭平川氏の娘おいちの故事にちなんで、そのお墓とここの観音様に、安産を願う妊婦は少なくないようです。

本尊の観音像の由来はあまりはっきりしませんが、一緒にお祀りしてある阿弥陀如来には天文九（1540）年とあり、十六代と十七代の藩主の菩提をとむらった仏様です。

あさぎり町須恵（旧 須恵村）には、昭和十年代にエンブリー博士が来町、当時の農村社会を調査し発表。「須恵村」の名は、世界的に有名になりました。

二十三番 覚井十一面観音

あさぎり町須恵

トイレ　通年開放

あさぎり町須恵（旧 須恵村）には、同じ二十二番札所が二か所あります。こちらの本尊は、地方仏師の作だと思われますが、まことにていねいに刻んであります。桧の一木づくりです。本堂は昭和五十二年に道路拡張のため、近くから新築移転したものです。ここにも御詠歌はありませんが、安産や家内安全を願って多くの人が参拝に訪れます。

ところで地名の「須恵」というのは、古代に須恵器という焼き物を中心に活躍した職能集団で、その長を須恵氏と言いました。ここにもその古代豪族須恵氏がいて、その勢力範囲は、遠く錦町あたりまで及んでいたものと考えられています。

百十三もの石段を上り、堂内に入るとまず本尊の大きさに驚きます。何しろ高さだけでも283㎝あり、手には多くの持物があるからです。球磨・人吉地方では、最も大きな仏像で、平安時代の作ではないかとも言われています。安産を願う人はいつでもどうぞと、大きさに似合わず優しいお顔で。

堂内には同じ県指定文化財の四天王や毘沙門天があり、入り口には宝永二(1705)年の鰐口が掛けられています。

トイレ　通年開放

影たのむ　人のこころの　闇までも
　　さやかに照す　山の端の月　　武親

まよふその　闇をもてらす　山の端の
　　月かげきよき　よよの古寺　美辰

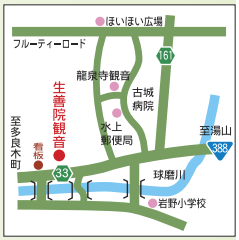
トイレ

通称、猫寺の観音さん。その名の通り、猫に因んでこの観音堂は建てられました。時に寛永二(1625)年のこと。

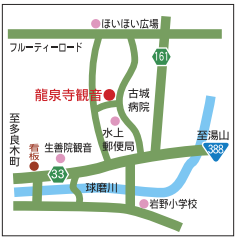
お堂は方三間、カヤ葺きの寄せ棟作りで、四方に回廊。内部は折上小組格天井、極彩色の須弥段の上には、本尊をおさめた特徴的な厨子が。何れも国指定の重要文化財。

猫寺の縁起をかいつまんで申しますと、普門寺の住職が無実の罪で殺害されました。怨んだ母親は愛猫に呪いを託して自殺。そのため相良家には不幸が続発。この怨霊を鎮めんと、藩主自らが願主となって観音堂を建て、郡民にも参拝をするように命じたのでした。

住職の名は盛誉、母は玖月尼、猫は玉垂。



ここは生善院と同じ番号です。龍泉寺本堂の左手にあるお堂で、明治三十六年に岩野の覚井から移築されました。お堂、本尊ともに立派に保存されています。この観音堂は、最初は水上村の里坊にあった多福寺で、その後、温泉寺→運泉寺→法泉寺→南朝寺→宝泉寺となり現在、龍泉寺が引き継ぎ今日にいたっています。龍泉寺は曹洞宗永国寺末で、いつ訪れても美しく清められています。観音堂の中には、縛婆仙人と功徳天の像もあり、ともに寛正三(1462)年の年号が記されています。

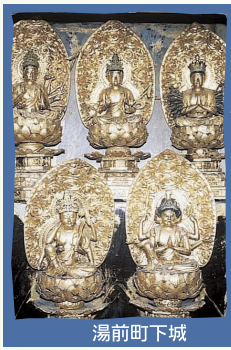


通年開放

皆人の　つゆのまへぬる　世の中に
　　こころを留めて　何思ふらん　武親

ゆきめくり　のぼりてとおく　まよふかな
　　へがたき道は　のりのひとすじ　美辰

二十五番 普門寺六観音



湯前町下城

トイレ

小さい尊像ながら聖観音・千手観音・馬頭観音・十一面観音准提観音・如意輪観音と六体の観音菩薩が揃ったお堂です。ただし、十一面観音は行方不明のまま。このお堂も多くの変遷があり、元は湯山の市房神社別当寺の「普門寺」。その後永正（1506）年、岩野に移転したりして、江戸初めには今の里宮に。

誤って殺害された法印盛誉も、この普門寺の住職でした。盛誉が殺された後は、二十年余り廃寺同然になっていたということです。

唯たのめ　普き門を　出し身の
　　まどかに通ふ　道に入るべく　武親

吹く風に　もれてつとふや　むれの鐘
　　しばしはのりの　心すまさん　美辰

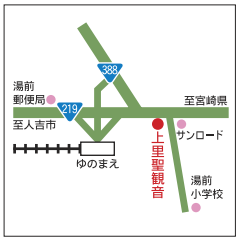
二十六番 上里の町聖観音

湯前町上里

通称は「町の観音さん」、その名の通り湯前町の町中に祀られています。お堂や本尊の由来ははっきりしませんが、本尊は室町後期の作です。

妊婦が旗を奉納して、それを頂いて腹に巻くと安産する、そう言い伝えてあります。

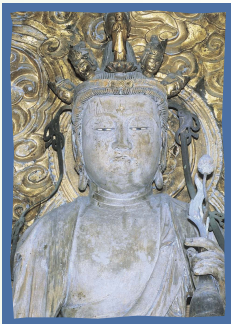
境内は墓地になっていますが、堂の前には背後に「冬川の流れに落ちし枯葉哉　智幽」という俳句を刻んだ墓碑も建っています。



ねがひつつ　西のむかへを　まちをらん
　　心にそむる　むらさきの雲　武親

みな人の　心の闇を　てらさんと
　　まち出る月の　影のさやけさ　美辰

二十七番 宝陀寺十一面観音



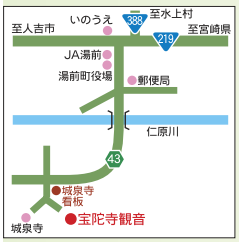
湯前町東方

トイレ

城泉寺阿弥陀堂から、少し山に入ったところ。もと久米氏の菩提寺でしたが、室町時代に亡び、寺号も宝台寺・鳳台寺などと呼ばれながら、現在の本尊と堂だけが残りました。

本尊は像高が179㎝もある堂々たる木造で、県指定の重要文化財。鎌倉後期の作か。

ことにお産や腰の病に霊験があるとか。秋の境内は真っ赤なケサカケ（彼岸花）が所せましと咲いています。また堂より少し高いところには「即身成仏」の遺跡も見られます。



代々の人の　くめどもつきぬ　法の水
　　ふかきをしへの　かぎり知られず　武親

のりの水　くめどもつきぬ　山の井の
　　ふかき誓いは　そこきよくして　美辰

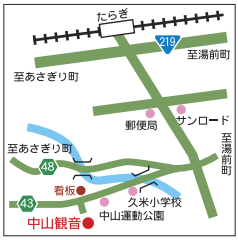
二十八番 中山聖観音

多良木町奥野

トイレ

ここの本尊は四天王に守られた形で、立っておられます。桧の一木造りで、像の高さは142㎝。多良木町指定の文化財。安産をお守りくださるというので、旗や鐘の尾（鰐口を鳴らす木綿の布）などを納め、それを頂いて腹に巻くのだそうです。

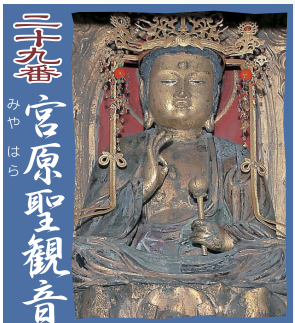
中山観音は御詠歌の作者美辰が晩年に隠棲した所。美辰は井口石見という人吉藩の家老で、十一年間に四人も藩主が代わるという激動の中で苦労しました。境内には彼の逆修塔が立っています。



手折りとれ　こころの奥野　中山に
　　のりの花さく　玉の枝あり　武親

とことはに　散らで花咲く　のりの庭
　　はこへ（運べ）心の　奥野中山　美辰

二十九番 宮原聖観音

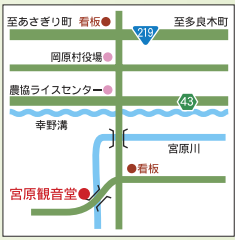


あさぎり町岡原

トイレ

平成七年に本来の姿に復元され、カヤ葺きのまことに優美な桃山様式のお堂に生まれ代わりました。また阿弥陀如来を納めてある厨子も立派で、いずれも県指定の重要文化財。宮原観音さんも、子授けや安産を守ってくださるというので、方々からのお参りが。

今では「宮ん原の観音さん」の名で親しまれていますが、このあたりに「龍泉寺」という別当寺があったとの記録があります。立派なお堂から推察すればここが龍泉寺跡かも。



露のみや　野はらにおくと　詠ふらし
　　うき身も終の　宿ぞここなる　武親

秋草の　葉すへにむすぶ　露のみや
　　のはらのかぜに　明日も散りなん　美辰

二十番 秋時十一面観音

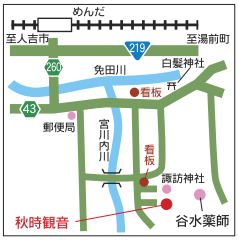
あさぎり町上

トイレ

ここのお堂は、諏訪神社や稲荷神社と並んであるのが特徴です。かつて日本の信仰は、こうして神と仏が一緒（習合）になった形が普通でした。明治になってそれが分離させられますが、ここでは珍しく古い形態を見ることができ、大変参考になります。

本尊はもと永里城の珠玉寺から移され、妊婦や家畜類を守って下さるということです。

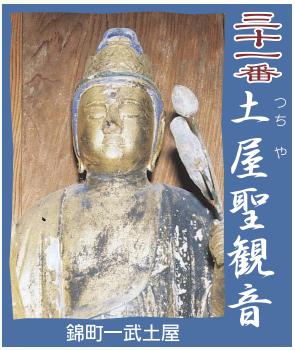
近くの上村城は、上村氏が十四代にわたって居城としていましたが江戸初期に廃城となりました。



身をすてて　ねがへ蓮の　花の上
　　村雨のまの　やとりかるせに　武親

露うけて　かぜに玉ちる　池の面
　　はな蓮葉の　上のむら雨　美辰

二十一番 土屋聖観音



錦町一武土屋

通年開放

土屋観音がある所は明治維新後「一乗寺」が廃寺となって、観音堂だけが残りました。

一乗寺の創建は古く、文安五（1448）年に人吉城の乗っ取り事件があった頃。その時に城主を援けて戦ったのが、永国寺の大蟲超虎。結局城主の尭頼は死亡、人吉に帰った超虎が結んだ草庵が一乗寺でした。境内には五輪塔や、正徳元（1711）年の庚申塔、享保十七（1732）年の「大乗妙典一字一石塔」なども見られます。

※本尊は盗難にあい行方不明。御堂は平成十六年に県立球磨工業高校伝統建築課生徒さんによって修復されました。

人は皆　一仏性の　あるなれば
　　心の玉を　外に求むな　武親

一葉にも　乗りへてしはし　しき波や
　　いたらんきしの　すへとふくとも　美辰

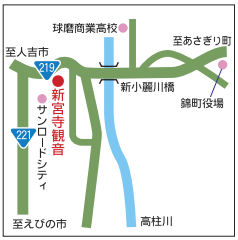
二十二番 新宮寺六観音

錦町西

トイレ　通年開放

竜宮のような門をくぐりしばらく歩きますと、静寂な黄檗宗新宮寺の境内に至ります。さらにお寺の左手の石段を三十二段上れば観音堂。そこには天正五(1577)年から、寛永七(1630)年まで五十三年間もかかって造られた六体の観音様が待っていて下さいます。いずれも錦町指定の重要文化財。

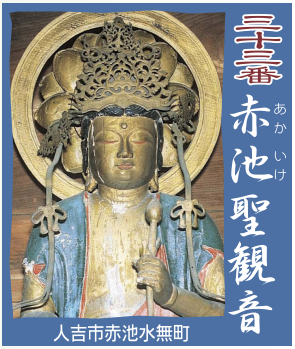
お参りしますと、六体もの大きな仏様に圧倒されそう。特に如意輪観音様は、子授けや安産への信仰で親しまれています。



六の道に　かへさしとてや　御仏の
　　身をかずかずに　わくるなるらん　武親

もらさしの　おしへはひとつ　六の道に
　　かずかずわくる　法の御仏　美辰

二十三番 赤池聖観音



人吉市赤池水無町

トイレ

人吉市内から大畑方面に向かう県道からそれ、高い石段を上った所にお堂はあります。順序の通り巡られた人はここが最後、「ご苦労様でした」。室町時代の作と思われるご本尊が、他の二菩薩と一緒にそう呼びかけて下さいます。境内には天正十七(1589)年の墓をはじめ多くの石塔類が見られます。

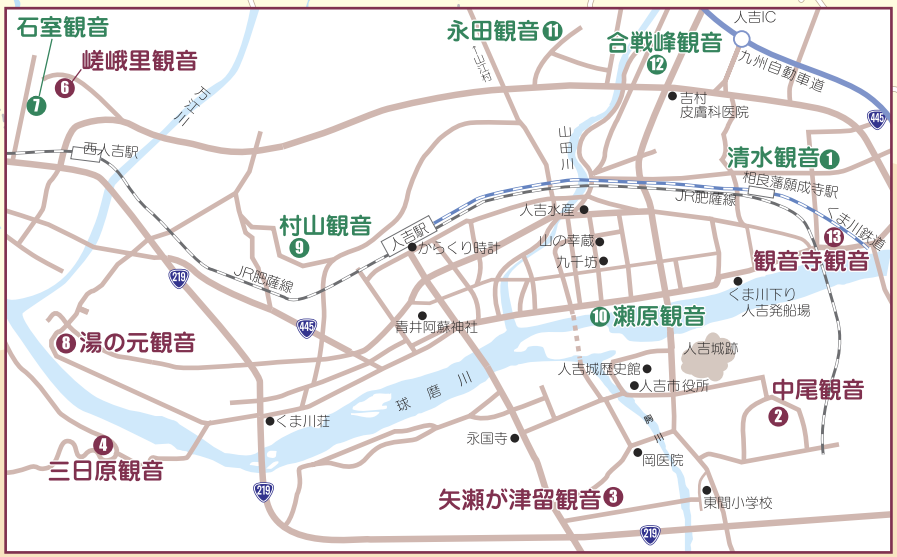
お堂の辺りはもと赤池城があったところ。また近くには、天然記念物のカマノクドや、「クラフトパーク石野公園」があります。

結びとる　赤池波の　清ければ
　　こころの月も　手に宿るかな　武親

影うつす　赤池水の　清ければ
　　月も心も　底にすむなり　美辰

相良三十三観音めぐり Map

■人吉市内地図■



ルート紹介

人吉市内を中心に（約4時間）

人吉IC →5分→ 1 清水観音 →2分→ 13 観音寺観音 →8分→ 12 合戦峰観音 →10分→ 11 永田観音 →10分→ 10 瀬原観音 →10分→ 2 中尾観音 →10分→ 3 矢瀬が津留観音 →10分→ 33 赤池観音 →10分→ 32 新宮寺六観音

下球磨を中心に（約2時間半）

4 三日原観音 →10分→ 8 湯の元観音 →10分→ 9 村山観音 →15分→ 5 鵜口観音 →10分→ 7 石室観音 →5分→ 6 嵯峨里観音

中球磨を中心に 一日コース（約6時間）

1 清水観音 →2分→ 13 観音寺観音 →5分→ 14 十島観音 →5分→ 15 蓑毛観音 →10分→ 16 深水観音 →10分→ 17 上園観音 →10分→ 18 廻り観音 →10分→ 19 内山観音 →5分→ 20 植深田観音 →5分→ 21 永峰観音 →5分→ 22 覚井観音 →5分→ 22 上手観音 →15分→ 30 秋時観音 →20分→ 31 土屋観音 →10分→ 32 新宮寺六観音

奥球磨を中心に（約3時間）

多良木 →15分→ 23 栖山観音 →10分→ 24 生善院観音 →5分→ 24 龍泉寺観音 →5分→ 25 普門寺観音 →5分→ 26 上里の町観音 →10分→ 27 宝陀寺観音 →10分→ 28 中山観音 →5分→ 29 宮原観音 →10分→ 30 秋時観音

春と秋のお彼岸の時期には、全ての観音堂を開放する「一斉開帳」があります。一斉開帳期間については裏面のひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会までお問い合わせください。

お堂には、それぞれに御詠歌が二首ずつ奉納されています。

武親と美辰という江戸時代の人が捧げられたもので、よろしければご一緒に、唱えてみてはいかがでしょう。

さらに次のような文言を口ずさみながら、ご参拝されますと、より心が温まるのではないでしょうか。

「願わくばこの功徳をもって、
あまねく一切に及ぼし、
われらと衆生と皆ともに、
仏道に成ぜんことを」

参路や境内は、集落の人たちが心をこめて清掃してくださっています。また路傍には美しい水が流れ、野の花が咲き、そして古い石仏なども見られます。どうか参拝の方々と、村の人々と挨拶を交わしながら、ゆっくりとご巡拝ください。

道中の好天とご安全をお祈りしています。

ご参拝のマナー

観音堂は、観音様が鎮座されます聖域ですので、参拝される方は静かに、お参りをしましょう。又、お帰りの時は来られた時よりも美しくを心がけましょう。ご利益を頂けること間違いなしです。

観音堂は、通年開帳されている所と、特別な日だけご開帳される所があります。扉が閉められている時は無理にこじ開けないようにしましょう。

参拝の手順

お堂にお手洗（頂水）がある場合は、手を洗い、口をすすぎ、身を清めましょう。次にお堂の正面に進み出て、賽銭箱のある場合は、お賽銭を入れ、鰐口がある場合これを軽く鳴らし、合掌してお祈りをします。

春と秋の一斉開帳期間で、お茶、おむすび等の接待がある場合は、心付けをするのが良いでしょう。地元の人々とのなごやかな交流がめばえると思います。

トイレ　トイレ有　　通年開放　年間を通じて常時開帳されている観音堂

発行／ひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会　熊本県人吉市麓町16　人吉市役所観光振興課内　電話0966-22-2111